

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
FMD News Vol.118をお届けいたします。

**FMD
OWNER'S CLUB**



8月のTOPICS

■ 左利きは心血管リスクが高い？ -- 血管内皮機能と自律神経機能からの新たな視点 --

私たちは普段あまり意識することのない「利き手」ですが、利き手の違いで血管内皮機能と自律神経機能の観点からCVDリスクを評価したユニークな研究がありましたのでご紹介します。

世界の人口の約10%は左利きです¹⁾。過去の研究により、左利きの人は右利きの人に比べて寿命が短いことが示唆されています²⁾。また、左利きの人は糖尿病やがんといった心血管疾患(CVD)関連疾患を患う割合が高いことが示されています^{3), 4)}。そこで本研究では、CVDリスクの主要指標である血管機能と心拍変動(HRV)が、左利きの人では右利きの人に比べて低いという仮説を検証しました。

18~50歳の健常者男女379名を対象に、血管内皮機能(FMD)および心拍変動(HRV)を測定し、左利き(LH)と右利き(RH)で比較しました。

LH群は全体の12.1%(46名)で、年齢やBMI、血圧などに大きな差はありませんでした。しかしFMDの結果では、LH群が6.1±3.2%と、RH群の7.6±3.8%よりも有意に低値を示しました(p=0.043)。また、HRVにおいてもSDNN(R-R間隔の標準偏差)はLH群が47.4ms、RH群が54.7msと、LH群で有意に低下していました(p=0.041)。さらに、LF成分やTP(VLF、LF、HFの合計)もLH群で低値を示しており、これらはいずれも心血管リスクの増大と関連しています。FMDと平均動脈圧(MAP)との間に負の相関(r = -0.517, p < 0.001)が見られたのはLH群のみで、RH群では有意な関係は認められませんでした。これらの結果は、LHの人が血管内皮機能の低下により、わずかな血圧変動に対しても影響を受けやすい可能性を示唆しています。

FMDが1%減少すると将来のCVDリスクが9%増加する⁵⁾ことを考慮すると、今回の結果においてLHの人はRHの人に比べてCVDリスクが約14%高いことを示唆しています。

Front Cardiovasc Med. 2023 Dec 14;10:1326686.

1) Psychol Bull. 2020 Jun;146(6):481-524.

2) Int J Neurosci. 1994 Mar;75(1-2):1-8.

3) Neuropsychologia. 1987;25(2):367-74.

4) Br J Cancer. 2007 Aug 7;97(5):686-687

5) Hypertension. 2011 Mar;57(3):363-9.

この研究では、左利きという一見無関係に思える個人特性が、血管機能や自律神経バランスといった心血管リスク指標に影響を与える可能性を示しており、大変興味深い結果となっています。

FMDやHRVの測定は、より個別化された予防医療やリスクスクリーニングにおいて重要な役割を果たすと考えられます。なお、先月号のFMD Newsでご紹介したABPMproは、24時間血圧モニタリングに加えて、ホルター心電図、今回の研究でも評価された心拍変動(HRV)解析、さらには自律神経覚醒の評価まで可能なマルチセンサーデバイスです。血圧と自律神経を同時に評価できる新たなツールとして、ABPMproをぜひご活用ください。

ABPMpro 測定項目

24時間血圧	夜間高血圧・早朝高血圧・白衣高血圧・仮面高血圧
活動量	血圧精度確認・睡眠/覚醒検知
体位	血圧精度確認・睡眠/覚醒検知
3極ホルター心電図	不整脈検出
呼吸数	睡眠時無呼吸
前駆出時間(PEP)	交感神経活動・心機能評価
心拍変動(HRV)	自律神経評価
SVB	自律神経評価
PTT(脈波伝搬時間)	血圧変動予測
PWA	自律神経覚醒

■ 青文字：ECGセンサー追加にて測定可能

■ 赤文字：ECG、PPGセンサー追加にて測定可能

ABPMpro



株式会社

ユネクス

健康へ 血管と筋肉を意識し大切な未来へ

ユネクス

検索